

# ま な び や ま と

No. 36

令和5（2023）年3月

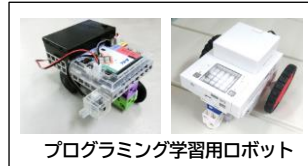
大和市教育委員会

## プログラミング学習

く広がる、授業におけるプログラミング学習用ロボットの活用

令和2年度から小学校

でプログラミング教育が必修化され、令和3年度には中学校についても拡充されました。それに伴い、大和市教育委員会では、放課後寺子屋プログラミング教室を開催し、



プログラミング学習用ロボット

プログラミング学習用ロボットを活用した学習の場を提供しています。また、学校でも各教科の授業の中で活用する取組みが進められています。

大和小学校の6年生は、2月13日(月)、14日(火)、3月7日(火)に、プログラミング学習用ロボットの活用をとおして、理科「発電と電気の利用」を学習しました。

授業のはじめに、電気とは「つくられるもの」「蓄えることができるもの」であり、私たちは暮らしの中で「電気を光・音・熱・運動へ変換しながら利用している」ことをふり返りました。また、電気を無駄なく使うための工夫が身の回りに数多く存在し、それらはプログラムされて動いているというを確認しました。

今回の授業ではセンサーライトに注目し、「人が近づいたらライトがつく」「暗くなったらライトがつく」という身近な事例を提示しながら、実際にプログラミングを

体験しました。子どもたちは自分で作ったプログラムをロボットに転送し、プログラムどおり動く、「やった」と嬉しそうな声をあげていました。さらに「省エネを実現するにはどうしたら良いか」というところまで考えを進め、友だちと話し合ったり試行錯誤を繰り返したりしながらプログラムを組んでいました。プログラミングを通して、子どもたちは電気を効率よく使うための工夫について考えることができました。



Chromebookの画面上で、こうしたブロックを組み合わせることでプログラミングができる

大和小学校の他にも、理科「発電と電気の利用」でプログラミング学習用ロボットを活用した学習が行われました。また、鶴間中学校では、技術科「プログラムによる計測・制御」の授業でもプログラミング学習用ロボットが活用されました。こうした取組みは、今後さらに広がっていくことが予想されます。

## 職場体験

小学校の先生の仕事を体験

大和市立南林間中学校

中学校では、『望ましい勤労観、職業観の育成や、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指す意欲の高揚を図る』(※)ための取組みとして、職場体験を実施しています。

(※)文部科学省「中学校職場体験ガイド」(平成17年より)

1月19日(木)と20日(金)の2日間にわたり、南林間中学校の生徒6名は緑野小学校で先生の仕事を体験しました。なかには、「将来は子どもと関わる仕事に就きたい」という生徒もいました。



当日の朝、生徒たちははやや緊張した様子でした。校長先生から「頑張ってください」と声を掛けられ、生徒たちは実際に児童が活動しているクラスに入り、

体験がスタートしました。「提出物の確認」「教材準備」「掲示物作成」「プリント配付」「お手本の板書」「個別の学習支援」などの業務を行ったり、休み時間や給食の時間に児童と一緒に過ごしたりしました。終了後、生徒たちは「体力が必要だと思っただ」「一人一人の質問に対応するのが難しかった」「小学生の元気に驚いた」「やっぱり先生になりたい」と話し、小学校の先生たちが、児童全員が楽しく安全に学校生活を送り、健やかに成長していけるように日々奮闘していることを身をもって体験していました。小学校での職場体験をとおして、生徒たちは働くことの意味や自身の将来について考えることができました。



## 書き初め大会

～年の初めに心を落ち着かせて～

大和市立草柳小学校

新年を迎えた1月13日(金)、草柳小学校で、3年生による書き初め大会が行われました。

3年生の子どもたちが書き初めで毛筆を使うのは初めてのことです。学校で練習し、冬休みにも家庭で宿題として取り組み、いよいよ今日が清書です。子どもたちは、書き初め用の大きな下敷きや書道セットを抱え、どこかワクワクした様子で体育館に集合しました。「冬休みに家でたくさん練習した」と、嬉しそうな表情で張り切っている子どももいました。

草柳小学校では、書家の高橋先生を書写の時間にお招きし、毎年ご指導いただいているそうです。書道の専門家の先生に丁寧に見ていただき、草柳小学校の子どもたちにとって大変貴重な経験となっています。

この日も、書家の高橋先生が学校に来てくださり、筆やすずりの置き方から筆の動かし方まで丁寧に説明され、子どもたちは高橋先生の話



を静かによく聞いていました。体育館の中は、半紙や墨汁の香りと共に、新年の穏やかで落ち着いていた空気が広がっていました。



ました。

全体での説明が終わり、個人で書く時間になると、大胆な筆遣いで勢いよく書き進めていく子、呼吸を整えてゆっくり慎重に筆を運び子、指で何度もイメ

ージトレーニングを繰り返す子など、筆の運び方に子どもたちそれぞれの書き初めへの思いが表れているようでした。

「月」が太くなっちゃった」と先生に相談した児童は、先生から「太く元気な字で良いよ」「筆を立てて書くことを意識してみ」とアドバイスされ、言われたことを意識しながら、2枚目・3枚目と、集中して書いていました。



書き初めを終えた子どもたちは、「練習より上手に書けて嬉しい」「筆で書くのは、とっても楽しい」と、満足げな表情で話していました。

## 第一学年弁論大会

～テーマ「体験を振り返って」～

大和市立上和田中学校



振り返って」をテーマに自分の意見を堂々と話しました。

2月9日(木)、上和田中学校で第一学年弁論大会が開催され、代表に選ばれた9名の弁士が壇上に立ち、大勢の生徒や先生、保護者たちに向かって、「体験を

弁士たちは、これまでの体験を「My are living」「あだ名という名のいじめ」「僕の人生「正しい正義ってなんだろう」「一人一人の考え方」「社会貢献」「言葉の重さ」「人は負けることを知りて勝れり」「本当の幸せ」というテーマに集約し、自分の意見を述べていました。「人間は何のために生きていくのだから」という哲学的な問いを立てて考察した生徒や、「桃太郎」の昔話から「正しい正義とは何か」について疑問を抱く



ようになったという生徒、言葉の持つ力について興味をもって考え観客に問いかけた生徒など、どの弁士もテーマに沿って深く考え、話す内容を上手にまとめました。また、説得力のある弁論にするために、自分の意見だけでなく、調べたりアンケートをとったりして得た客観的なデータも一緒に提示するなど、丁寧に組み立てられている点も印象的でした。

話を聞く生徒たちの態度もとても立派でした。みんな真剣な様子で弁士の話に耳を傾け、全ての発表に対して、手元の用紙に自分の意見や感想を書き込んでいました。発表が終わる度に、弁士に対して大きな拍手が送られ、会場の生徒全員で弁論大会の良い雰囲気を作り上げていました。

大会の最後に、校長先生から代表弁士一人一人への講評があり、表彰状が手渡されました。その後、校長先生は参加した1年生に対して、「初めての弁論大会だったが、よくできていた。来年度が楽しみ」と話されていきました。生徒たちは、弁論大会をとおして様々な意見に触れ、考えることができました。



## おらが学校

～楽しい学校づくり～

大和市立渋谷小学校

大和市の小中学校のなかで、最も歴史のある渋谷小学校は、来年度に創立125年を迎えます。卒業生数も1万4000人を超え、高座渋谷の地で伝統を受け継いでいます。卒業生のなかには親子二代に留まらず、三代、四代と渋谷小学校の卒業生といったご家庭もあります。

また渋谷小学校は、外国籍児童や外国につながる児童数が多いのも、特徴といえます。国際教室は4つの教室があり、担当の教員によって、40人以上の児童が日本語指導を受けています。廊下や教室の掲示が工夫されていたり、児童ごとの課題に沿った授業が行われていたりするなどの特徴があります。

昨年のワールドカップの開催時には、職員室横の掲示板に、出場国の国旗のクイズやトーナメント表、優勝国当てクイズなどの掲示が並びました。掲示を見て、子どもたちも先生も、みんな世界を国々に思いを馳せました。



また今年度は、渋谷小学校の教育重点目標「スマイル100%ひびかせよう！自分の力↓みんなの力」を合言葉に、日々、子どもたちが楽しく笑顔になるような学校づくりを行っています。子どもたちが自ら提案して実現した、児童会の行事も開催されました。

特に盛り上がりがあったのは、休み時間に行われた『逃走中』。テレビの企画を参考に児童会で考えた行事です。児童会役員の進行のもと、ハンター役の先生から、子どもたちが逃げ回りました。ハンター役の先生たちも、着ぐるみを着たり、サンングラスをかけたリ…。大はしゃぎの子どもたちでした。好評を受け、『戦闘中』という企画も行われました。子どもと先生が一体となつて、手作りの楽しい時間が作られています。

コロナ禍ではありますが、渋谷小学校ではさまざまな工夫をしながら、常に新しい挑戦をして、歴史をつないでいきます。



## 防犯劇ボランティア

～あけぼの幼稚園防犯教室～

大和市立渋谷中学校

12月7日(水)、渋谷中学校ボランティア委員の10名は、あけぼの幼稚園の防犯教室に参加し、防犯についての劇を発表しました。あけぼの幼稚園防犯教室は、神奈川県、大和警察署、NPO法人などと協働して実施されているもので、あけぼの幼稚園と隣同士の渋谷中学校では、以前から生徒がボランティアとして参加し、交流が続いています。

発表の内容については、事前に警察や自治体の方と一緒に打ち合わせを行い、準備をしました。防犯劇のタイトルは「さっちゃんききいっぱつ」。中学生たちは、スライドに合わせてそれぞれの役を演じ、日常の生活の中で身を守るために気を付けてほしいことを、幼稚園の子どもたちに紙芝居形式の劇にして伝えました。劇の後



には、「おおだこポリス4つのおやくそく」をみんなで声を合わせて読み、大事なポイントを確認しました。その後は、楽しいダンスの時間です。中学生がお手本を示

し、幼稚園の子どもたちは真似をしながら振り付けを練習していました。中学生は教えるのがとても上手で、幼稚園の子どもたちもすぐに覚えて、少しすると会場の全員で歌って踊って大盛り上がりでした。アンコールで何回も繰り返して踊り、楽しい時間となりました。防犯教室の終わりに、プレゼントとして主催団体の方々の作ったランドセル型ストラップが配られ、幼稚園の子どもたちはみんな笑顔で嬉しそうに受け取っていました。

防犯について、小さい子どもたちにも分かりやすく、また楽しく伝えられるように様々な工夫があり、とても良い防犯教室になりました。最後に、10名の中学生に感謝状が贈られました。幼稚園の子どもたちの楽しそうな笑顔に触れて、中学生たちにとっても大変貴重な経験となりました。



防犯教室になりました。最後に、10名の中学生に感謝状が贈られました。幼稚園の子どもたちの楽しそうな笑顔に触れて、中学生たちにとっても大変貴重な経験となりました。

